

## 会津地域自治体広域連携シンポジウム「7人のマスコミが見た会津」

日時:令和4年 11月3日(木・祝)13:30~16:20

場所:会津大学 講堂

### 第2部 パネルディスカッション

#### パネリスト

福島民報社	会津若松支社長	紺野 正人 氏
福島民友新聞社	若松支社長	小池 正博 氏
株式会社ラジオ福島	会津支社長	大内 雅人 氏
福島テレビ株式会社	会津若松支社長	鈴木 孝雄 氏
株式会社福島中央テレビ	会津支社長	熊田 智一 氏
株式会社福島放送	報道部記者	大槻 忍 氏
テレビユー福島	会津若松支社長	八代 光弘 氏

#### 進行役

福島県会津地方振興局長 高野 武彦

### 福島県会津地方振興局長 高野 武彦

それでは、第2部を始めていきたい。

第1部の素晴らしいプレゼン、すごく感動した。ありがとうございました。驚きと嬉しさ、ワクワク、いろいろな気持ちになった。せっかくの機会なので、私の方から各社1~2問、5分くらいずつ質問していきたいと思う。恐縮だが、民報さんから順番にお願いしたい。後ろのスクリーンにはスライドショーで、ずっと会津の映像を流すので、特に発言内容とは関係ないが、バックの方も楽しんでいただけたらありがたい。

それでは、民報さん、やはり渡部潤一先生良かったですね。

**福島民報社 会津若松支社長 紺野 正人 氏**

そうですね。

**福島県会津地方振興局長 高野 武彦**

会津の夜空、ここに注目していただいて、本当に嬉しい。美しい星空を守るということは、やはり地域の「誇り」につながる。そのとおりだなと思った。魅力の再発見につながったと思う。星空にはロマンもある。流れ星に願いをかけ、「見上げてごらん夜空の星よ～」という坂本九さんの歌もあった。そういったところで、「星空浴」という言葉があった。幸せを感じるような予感がする「星空浴」だが、この奥会津7町村を訪れるおすすめの「星空浴」があったら教えていただきたい。

**福島民報社 会津若松支社長 紺野 正人氏**

局長から、流れ星に願いをという話があったが、星空を観察するには、奥会津の環境は大変素晴らしい。流れ星を数えるのが一番かなと思う。渡部潤一先生も、観察していると結構流れ星が観察できるとおっしゃっておられた。気象条件などにもよるが、ぜひ、流れ星を数える挑戦をしていただければなあなんて思う。

**福島県会津地方振興局長 高野 武彦**

浄土平よりもずっと星空が綺麗に見えるという話も聞くが。

**福島民報社 会津若松支社長 紺野 正人氏**

先日、10月1日の観察会参加させていただいたが、肉眼で天の川が見えるし、都会や市街地では絶対見えないような「いるか座」が見える。これはすごい。観察会では、レーザーポインタで星空を照らし、解説していただけたので、大変わかりやすく観測できた。

**福島県会津地方振興局長 高野 武彦**

「いるか座」が見えるのは本当にすごいことですね。なかなかこの辺では見ることができない。絶対に行ってみたい。

**福島民報社 会津若松支社長 紺野 正人氏**

もう一つ、スキー場のゲレンデでの星空浴もありかなと思う。スキー場は一般的に標高が高い場所にあるので、星がすごく近く見えるのではないかなと思う。実際に私も今年5月に南会津町の会津アストリアホテルさんに泊まった際、隣接するゲレンデから見たら星が近くて感動したというのを覚えている。

**福島県会津地方振興局長 高野 武彦**

また、地域おこしのヒントをいただいた。スキー場はたくさんある。そこで、「星空浴」ツアー、これは面白い。

**福島民報社 会津若松支社長 紺野 正人氏**

ぜひ、私もそういうのがあったら参加したいと思っている。

**福島県会津地方振興局長 高野 武彦**

これは広域連携でもやれる。市町村でもそういったところをやると面白い。民報さんの今のプレゼンで、もう一つ感じたのは、人口減少や過疎化を逆手にとったアプローチだということ。「星空を見よう」というのは、「逆転の発想」によって、いろいろな可能性が探れるよというメッセージかなと思った。過疎化や人口減少というのも、起点、見方を変えれば、魅力になると感じた。

それで民報さん、プレゼンでは星空一点しかお話しいただけなかったが、他に言いたいところがあれば、お話いただきたい。

**福島民報社 会津若松支社長 紺野 正人氏**

最近注目しているのが、会津産の「漆」である。会津若松市の「NPO法人はるなか」さんが2006年から喜多方と会津若松で漆の植栽を始めており、15年の歳月を経て、昨年、漆の液の採取に漕ぎ着けた。今年5月に自前の漆で、ぐい呑みの漆器を完成させたところだが、一般的な外国産の漆と比べて落ち着

きのあるツヤが特徴だそうで、今後更なる商品開発を楽しみにしているところである。

#### 福島県会津地方振興局長 高野 武彦

「会津漆器」、これも会津の「誇り」であり「宝」だ。本当にありがとうございます。

福島民友さんに移りたい。最近報道された新聞の紙面から広くお話していただいた。プレゼンの最後で人材育成にフォーカスされていた。インバウンドの話もあり、只見線に今多くの人 coming。その中で、このツアーガイドの力は大きく、その育成は重要なのではないかと思う。そこで、このツアーガイドについて、会津に住む人と会津を訪れる人と、どのような効果が生まれるかというところをお話しただけだとありがたい。「(ツアーガイドには)こんな期待もあるよ」というところもお願いしたい。

#### 福島民友新聞社 若松支社長 小池 正博 氏

ツアーガイドの育成による効果というのは、いくつかあると思うが、単純に言えば、ガイドの数が増えれば、より多くの人に会津の魅力を伝えることができるということだと思う。接触者が増えるということだが、それと同時に会津地方で歴史や文化遺産、偉人たちの関連施設などを巡るツアーを旅行会社や関係自治体などが連携して企画をすることも必要じゃないかと思っている。より魅力的な会津地方を発信するような企画、そういったものを連携を深めながら実施することが必要だ。ガイドさんには、ただガイドをするだけではなくて、やはり勉強も必要だと思う。地域の歴史や文化に誇りを持ってもらい、そして、おもてなしの心で楽しみながら、来ていただいた人に紹介するということが非常に重要なのではないかと思っている。今はSNSの時代なので、良くも悪くもそこで感じたことを(会津に)来た人は発信すると思う。そこに来てその人しか知らない情報というのを知ること、いろいろなところに情報が刺さり、その人たちが、今度また会津地域に行ってみようとなるのではないかと思う。

**福島県会津地方振興局長 高野 武彦**

ありがとうございます。おもてなしの心は大事である。我々がディズニーランドに何度も行きたいと思うのは、キャストの方々の思い出に残る丁寧で機転の利いたおもてなしがあるからだ。心に残るおもてなしを受ければ、「今こんなことがあったよ」って、SNSでつぶやいてしまう。それが、またいろんな層の人に広がっていく。このツアーガイドの育成は大事な事業である。

**福島民友新聞社 若松支社長 小池 正博 氏**

簡単に、ツアーガイドが増えればいいという話でもなく、やはり仕組みづくりも非常に大事だと思っている。そこには、自治体や県などの補助も必要になってくるのではないかと。なかなかボランティアというだけでは、上手くいかないのではないかと。現在、我々が今年から始めたガイドは十数人だが、これが倍になり、3倍に増えていくことで、より発信力が出てくるのかなと思う。例えば、福島市の花見山には、ボランティアガイド「ふくしま花案内人」という団体がある。平成16年からガイド活動を開始し、今現在会員が100名を超えるそうだ。ガイドたちは、花見山の園内でのガイドは当然だが、福島のJR駅の東口にも行き、アクセスの情報を流したり、今この花が見頃ですよとガイドもしたりしている。そういう例がこの会津でも増えてくれればいいのかなと思う。

**福島県会津地方振興局長 高野 武彦**

ありがとうございます。

ガイドでいろいろ広がりがあるということと、福島市で取り組めたことは、我々会津でもできないことではないと思う。先ほど県の支援という話もあったが、ぜひ、サポート事業を活用していただけたらありがたいと思う。

もう一つ、民友さんは人にフォーカスされていた。今回、子供たちへのメッセージがなかったのが、民友さんが代表して、会津の魅力を子ども達にどう伝えたらいいかという話をいただけないか。

福島民友新聞社 若松支社長 小池 正博 氏

実は、会津の子供たちは全く心配ないと思っている。会津は教育が昔からよく継続されている地域で、浸透していて、少年の主張の審査員を務めていても大人がびっくりするような主張がたくさん出てくる。

こんなこともあった。車の運転をしている時、道路を渡ろうと小学校低学年のお姉さんと1年生ぐらいの男の子が、横断歩道で待っていた。私が車を停めて、対向車も車を停めて、子供たちを渡してあげたら、子供たちが渡り切った後、お礼の仕方がすごかった。2人でこうやって（最敬礼）お礼をしたので、感動した。何日か経って支社に帰ってその話をした時、他の職員から実は私もそういう経験があるという声が上がった。会津ではそういうものが自然と躰られている。家庭でも、学校の教育でも、きちっと為されていると思う。その子どもたちが大人になって、自分たちの子供たちにもそれを受け継いでくれるのかなと思う。私も県内色々歩いたが、ここは特に素晴らしいと思う。

福島県会津地方振興局長 高野 武彦

大人が見習わなければならない。本当は子供の時そうだったのかもしれないが、大人になるとできない。そうしたことを（大人になっても）しっかりと受け継いでいきたい。

福島民友新聞社 若松支社長 小池 正博 氏

子供から教えられた。

福島県会津地方振興局長 高野 武彦

ありがとうございます。

ラジオ福島さん、軽快な競馬実況、楽しく共感・実感した。私もつついビールと日本酒、1本、2本、3本といっちゃいそう。本当に楽しく、会場の皆さんも盛り上がっていた。今回は、只見線に乗ってのレースだったが、今度は裏磐梯や猪苗代方面に向かっていくと、「ウワノソアラ」とジョッキー大内は、どんなレースを見せてくれるのか。

株式会社ラジオ福島 会津支社長 大内 雅人 氏

磐梯山と猪苗代湖、2つの全国に知れ渡るシンボルマークがあるので、圧倒的に優位。そこから単勝を買うかなという感じだ。これだけ施設もたくさんあるので、私だったら一泊二日や日帰りではなく、天皇賞春 3200mの長丁場のよな感じで、ゆっくり観光したい場所だと思う。

例えば、初日を猪苗代にし、猪苗代スキー場を登って行く、そこから見上げると、こちらの空はこのコロナモードだが、磐梯山の上にある空は青く、見下ろせば鏡のように光る猪苗代湖の水面、本当に素晴らしいと思う。そこから下りて、企業努力で復活した白鳥丸や亀丸、猪苗代エリアの野口英世記念館と感染症ミュージアムもできた。民間のパワーはすごい。更に猪苗代はバイクのツーリングのメッカにもなっている。我々の世代でいうと喫茶店、今でいうところのカフェ、すごくレベルが高くて、バイカーの中で話題になっている。みんなでツーリングに来て、喫茶店に行ってなんていう話もよく聞く。初日を猪苗代で過ごして、夕方、北塩原に入って、大小様々な工夫を凝らした宿泊施設があるので、そこで泊まる。朝起きたら今度同じ山かと思う裏磐梯から見る磐梯山を見て、五色沼を散策したり、檜原湖もあるので、今度は観光船じゃなくて、モーターボートでアクティブにやったり、そんな過ごし方もすごくいいのかなと思う。

福島県会津地方振興局長 高野 武彦

ありがとうございます。そうしたら、「ウワノソアラ」とジョッキー大内さんはいろいろなところでまた止まっちゃいますね。

先ほどのプレゼンはお酒のつまみということで、お酒と食を中心としたお話だった。食べ物、温泉そして施設もあったが、極めると会津の魅力はどんなところだと思うか。

株式会社ラジオ福島 会津支社長 大内 雅人 氏

私がすごいなと思うのが、道の駅。特に「道の駅猪苗代」、「道の駅ばんだい」、「道の駅あいつ 湯川・会津坂下」この三つはすごい

品揃えも会津を大切にしているというのがすごくわかる。猪苗代だったら猪苗代、磐梯だったら磐梯という形でそのエリアの良いものを揃えている。そこに必ず、内閣総理大臣賞受賞の蜂蜜だとか、そういう細かいところも書いてある。それぞれの特徴を出しているという意味で、3か所はすごい。他の道の駅さんも見て、同じレベルに上がってくるともっと会津エリアが良くなるのではないかなと思う。

#### 福島県会津地方振興局長 高野 武彦

この3つの道の駅は本当に県内の道の駅でも、上位に入ってくる有数のところなので、観光客の皆さんに支持されているし、地元の方もいらっしゃる。

#### 株式会社ラジオ福島 会津支社長 大内 雅人 氏

地元の方が野菜を買いに来たりするなど固定客が多いという話も聞いている。もっと言うと、「道の駅磐梯のソフトクリームそばソフト」、「喜多方おくやのピーナッツソフトクリーム」、それから「会津中央乳業のソフトクリーム」これを私は「会津の三大ソフトクリーム」と呼んでいる。

#### 福島県会津地方振興局長 高野 武彦

それはいい。飲んだ後にはソフトクリームというところで、ありがとうございました。

福島テレビさんに移っていきたいと思う。「会津はひとつ」で会津の魅力発信、この力強い応援ありがとうございました。「情報発信による認知は、手段であって目的ではない」、と最初にピシッと言われ背筋がピッと伸びたところだ。我々行政も発信することが目的になってないかという警告だなと真摯に受け止めた。ありがとうございました。このプレゼンの中でもメディア、Web、SNSを通じて、魅力ある情報発信をということをおっしゃっていただいた。魅力ある情報発信って難しいと思っている。さすがテレビ局さんだなと思う。三大ブランド地鶏、映像を見るとやっぱ食べたいなあ、食べ比べしたいなあそういう気持ちになる。やはりそういう行動変容をどうやって起こさせるかっていうのが大事なんじゃないのかなと思う。

メディアの立場から見て、情報の受け手に行動変容を促すような発信の仕方はどうすればいいのか。こんなところに目をつけたらいいよとか、WebとかFacebookとかInstagramとかいろいろあるが、種類別の取り組み方、活用の仕方についてアドバイスいただきたい。

**福島テレビ株式会社 会津若松支社長 鈴木 孝雄 氏**

情報の発信方法だが、近年はWeb・Webメディア・ソーシャルメディアというようなものが、どんどん情報発信の中核を担う部分になってきている。

私ども今日登壇させていただいているマスメディアが生業としている発信だが、マスメディア、その他のWeb、ソーシャルメディア等々、それぞれの特徴がある。マスメディアが最高だとか、ソーシャルメディアが一番だなどと簡単に括れるものではない。マスメディア、私どもは不特定多数の皆さんに情報を届けることができる。全く興味がない方にも偶然目にしてもらえる、耳にってもらえる。ちょっと面白そうだなと興味を持って訪れてもらえるというように、動機付けになる場合もあるかと思う。そういったメリットもありながら、目に触れないと、そのまま過ぎ去ってしまうという部分があるメディアでもある。そういった中で、Webメディア、最近ネットのニュースみたいな言い方もされますが、私ども以外にも通信社とか大手の新聞社、テレビ、ラジオ等々もニュースの配信をしている。そういったニュース配信があり、それを転載するヤフーニュースやスマートニュース等があり、その下に、ここからは双方向の部分になるが、食べログや口コミサイトのようなものがある。これは感じた人が点数を付けて投稿するというようなものである。さらに、どんどんソーシャルメディアの色合いが強くなるが、YouTubeであれば、娯楽の域を超えない部分もあるが、情報の発信ということでは、動画広告や広告サイトへ移動というボタンが出てくることがあると思うが、そういった発信の方法がある。ソーシャルメディアになってくるとFacebook、Instagram、これらはそれぞれ利用者に特徴がある。Facebookだと30・40代～40・50代の男性の利用者が多く、ビジネスニュースされていることも多いので、割と固く、中身も質もガッチリしたもので展開をしたい場合に有効なのかなと思う。InstagramはFacebookと情報を共有して展開できるので、動画や画像など、いわゆる見た目の「映える」とい

う言い方をされるが、そういった展開ができるということが強みだと思う。ソーシャルで皆さんに一番身近なのはTwitterかなと思うが、Twitterであれば拡散である。その拡散によって、瞬く間にいろいろな人に情報が伝播する。ただ間違っただ情報が飛び交ったり、時にはフェイク、わざわざ嘘の情報を出したり、信頼性という部分では欠けていってしまうかと思う。これをやればOKだとか、間違いがないという答えは、なかなかないかなと思う。メディアをミックスして手探り状態でやってみて、今回はこうだったから、次回はこうやってみようというような形で展開を都度都度考えていくしかない。商品にもよるので、特性を見極めて、それぞれにカスタマイズしていくしかないと思っている。

#### 福島県会津地方振興局長 高野 武彦

ありがとうございます。本当に県民や住民の皆さんに情報を伝える、いろいろな方法があり、それをどうつなげていくかというところは難しい。これからいろいろな相談にのっていただきたいと思う。

F T Vさんも「食」にフォーカスされていた。本当はもっといろんなことを言いたかったのかなと思う。「食」以外で話したかったことがあればお話いただきたい。

#### 福島テレビ株式会社 会津若松支社長 鈴木 孝雄 氏

会津の魅力、もちろん語りきれない。やはり、自然、歴史、文化、食も面白い。新たな特産物や名物を作ろうとしても、自然や歴史は作ろうと思って作れるものではない。そういうのをたくさん持っているのが会津地方だと思う。私どもでも理解してない、知識として持っていないような、眠っている会津の宝物もたくさんあるのではないかと思う。それを見つけて、磨き上げて、情報を発信して、お客さんに来てもらうというようなことができればと思う。東京や都会であれば、新しいものをどんどん作り上げて展開して人を集めることができるが、会津はそうではなく、今ある素晴らしい宝をもう一度再発見し、磨き上げて提案し、お客様に喜んでいただくというふうになってほしい。

**福島県会津地方振興局長 高野 武彦**

今あるものをしっかりと磨き、様々な視点からSNS等を上手に活用して発信していくということが大事なのだと思う。

福島中央テレビさんに移りたい。「にゃん旅鉄道」一本での御紹介だったが、まず、先月5日に亡くなった「らぶ」ちゃんの御冥福を心からお祈り申し上げます。只見線の全線再開通となった10月1日に、会津鉄道の皆さんにお会いできたので、「らぶ」ちゃん元気かと尋ねたら、持ち直したと話されていたので安堵していたのだが、急に5日に訃報に接し、とても悲しく思った。「らぶ」ちゃんはじめ、芦ノ牧温泉駅の猫ちゃん達には、会津の魅力を発信していただき、心から感謝しているところだ。

中テレさんからのプレゼンを聞いて、一つ反省した。動物も会津に住む生き物であり、私たち人間と同じだということ。その動物の目線は大事だと思った。今回は、猫に焦点を当ててくださったが、その他にも私たちが思いを馳せるべき会津の動物たちがいれば、御紹介いただけないか。

**株式会社福島中央テレビ 会津支社長 熊田 智一 氏**

まず、会津の注目の動物だが、1つ目としては、猪苗代湖の白鳥かなと思う。白鳥はとても美しい鳥。優雅だけど動きはすごくダイナミックで豪快。もし、猪苗代湖に白鳥がいなかったらとても寂しいと思う。正に、冬の風物詩の一つ。

もう一つ、動物と言ったらちょっと違うかもしれないけれど、「赤べこ」、会津を象徴する存在。何とも言えない可愛らしさ、見れば見るほど可愛さがじわじわとくる。純和風の建物の中でも、洋風の外国の風景にもなぜかマッチしちゃうような、自然と溶け込むような、本当に絵なる存在かなと思う。

**福島県会津地方振興局長 高野 武彦**

中テレさんは、会津鉄道にフォーカスしていただいた。今、只見線が大きく注目されているが、この会津地域には、会津鉄道、野岩鉄道、磐越西線、只見線という4つの路線があり、それぞれに施設群も土木遺産に認定され、重要な

宝になっている。そういったところに目を向けていただいて、ありがとうございます。

そして最後に「天地人」。懐かしくなったところだが、やはり、この空と会津の大地、そしてそこに生きる私たちと動植物、この3つが重なり生み出されているのが今のこの会津だと思う。「らぶ」ちゃんや動物の視点、白鳥や赤べこという話もあったが、視点を変えて見るのが大事だと思う。人間以外の目線に変えて見ると、いろいろな可能性が探れるよというメッセージをいただいたのだと思う。本当に目から鱗だった。そういった点から目線を変えることで、こんな風に魅力的になるんじゃないか、ということがあれば教えていただきたい。

#### 株式会社福島中央テレビ 会津支社長 熊田 智一 氏

目線を変えるというと、どうしても自分の目線という形になるが、私は、会津に来てまだ半年の会津初心者であり、ここで本当に率直に感じる会津の魅力は、美味しい食べ物だと思う。本当にラーメンが大好きで、毎週必ず食べているが、日本三大ラーメンの喜多方はもちろん、西会津の味噌ラーメン、会津若松市にも数えきれないくらい美味しいお店がある。各地の蕎麦、居酒屋さん、定食屋さん、ドライブイン、旅館、本当にどこも地元の食材を大事にして提供してくれるおいしいお店が多いと感じる。昨日私が行った居酒屋さんでは、お通しに「漬けマグロのたたき」が出たが、なめこと大根おろしで和えてあって、本当に美味しくいただいた。こういう会津っぽいアレンジ、一つ一つのお店が地元の食材に誇りを持って料理を提供していると感じる。地元の味を提供することは、地元を知ってもらうということにもつながっていると思う。

#### 福島県会津地方振興局長 高野 武彦

「なめこ」と「大根おろし」は本当に美味しそうだ。いろいろな工夫で会津のおいしさを引き出すそういうところも魅力、それを伝えるということも大事。ありがとうございます。

それでは、福島放送さんに移ります。福島放送さん、被るかもしれないと思いつつも只見線一本での勝負、勇気があったなと思う。

**株式会社福島放送 報道部記者 大槻 忍 氏**

このタイミングで、これしかないと思った。

**福島県会津地方振興局長 高野 武彦**

只見線を通しての人とのつながり、日常の生業、歴史、文化いろいろなことが学べると思う。放送にあった鶴亀荘の女将さん、吉野さんの言葉、じんじんと伝わってきた。「11年経っても建物の傷跡は全く消えない」とか「11年目に被害が出てくる」、被災した時に、「心配だから行くよ」というお客さんの声、そうだよなと感じた。放送の中で、吉野さんが只見線の汽笛を聞いて、「生き返った」と言ったセリフ、じーんときた。一本勝負の取材を通して、奥会津の人にとって只見線ってどういう存在なのか、大槻記者の目から見て感じたことをお話しただけでないか。

**株式会社福島放送 報道部記者 大槻 忍 氏**

先ほどのVTRの後の写真でも少しご紹介したが、「おかえりなさい」という横断幕が今いろいろなところに出ている。それだけではなく、沿線の方々、住民の方々、本当にたくさんの方が手を振ってくれている。私が先日乗車した時も、例えば家の中から小さなお子さんを抱いて列車に向かって手を振ってくれる人や、線路の目の前にお宅では、80歳を過ぎたぐらいのおばあちゃんが、列車が通る時にわざわざ出てきて、列車をずっと見続けている。こんなに愛されている路線、全国を見ても他にあるだろうかと思うぐらいに本当に愛されているというのを実感した。私もいろいろな取材をしてきたが、金山町に只見線に千回以上乗った大越智貴さんという方がいらっしゃる。この方は只見線が好きで、そこから奥会津に興味を持ち、今年郡山から金山に移住された方だが、その方に只見線の魅力は何か聞いたことがある。大越さんが答えるには、只見線は奥会津の自然や街並みなどの中を黙々と景色に溶け込んで走っているところがいいんだおっしゃる。実際、彼が撮った写真を見てみると、列車がメインに映っているというよりも、山々だったり只見川だったり、茅葺き屋根にトタンを乗せたような昔ながらの古い家、その集落の中を走る列車というものが多く。写真を見ても、風景に対して列車のサイズが結構小さい写真が多い。

パッと見てもあれ、これどこに列車があるのと聞かないとわからないぐらいの写真がある。それだけ大越さんにとって、あるいは奥会津に住む人々にとっても只見線は当たり前前の風景というか、溶け込んでいる風景だと感じた。もちろん生活路線という面もあるが、便数だったり、駅からの二次交通の問題だったりもあるので、実際は普通の生活は車を使っているという方も多いと思う。この間乗車した時も、せっかく再開通したからと言って、地元の高齢の方や子供を連れた家族などもたくさん乗っていた。以前は当たり前だった、当たり前前に走っていた列車、当たり前だった風景、これが11年という長い歳月をかけてようやく戻ってきたというような、皆さんの喜びをひしひしと感じた。

#### 福島県会津地方振興局長 高野 武彦

ありがとうございます。福島放送さんのプレゼンで私が心を揺さぶられたのが、「護岸工事で変わる景色、今までと違って好きになれそう」、これにはグッときた。やはり、東日本大震災原子力災害でも同じ。災害によって風景が一変するが、復旧復興後の景色を受け入れられるかという問題が出てきてしまう。一方、この奥会津の場合、少し違うと私は思っている。やはり、奥会津の人たちにとっては、今から112年前1910年から始まる只見川の電源開発、昭和21年に宮下ダムが完成し、その後柳津ダム、本名ダム、田子倉ダム、滝ダム、大鳥ダム、そして平成元年に只見ダムが完成する。多くのダム建設によって、それまでの景色がどんどん一変する。それを受け入れながらきている。奥会津の人にとっては、電源開発によって日本の高度経済成長を支えたという自負があると思う。女将さんの言葉に、「茶色の景色に変わって、なかなか受け入れられない」というのが、「冬になって、これが雪化粧だ」って、そこからそんな印象を感じる。大槻さんの目で見て、人と景色、災害とか開発によって変わっていく景色、そういったことにコメントをいただけないか。

#### 株式会社福島放送 報道部記者 大槻 忍 氏

只見線も歴史を辿ると、田子倉ダムの建設のために、その貨物を輸送していたという経緯もある。実際、列車に乗ったり、並行して走っている国道252号を車で走ったりすると、本当に綺麗な景色の中に突然ダムが出てきたり、発電施設やその送電用の鉄塔の群れがパッと出てくる。実際、この間只見線の列車

に乗った時も、車窓から景色を撮っている乗客の方で「構造物がない方がいいなあっ」て呟いている方がいらっしゃった。そこは、川沿いにコンクリートの堤防がある景色だったが、確かに景色としてはそういったものがない方が美しいというのは気持ちとしてはよくわかる。しかし、よくよく考えると、その只見線自体も人為的に作られた構造物だが、それが今では只見線の鉄橋や、そういったものが作る景色、それ自体が既に絶景ともなっていて、土木遺産にも認定されている。過度な開発には問題があると思うが、一方で災害から復旧したり、災害を防ぐために景色が変わってしまったりということは、そこに住む人にとって、ある程度必要なことではないかと思う。そうした面も含めて景色が変わっていくということは、自然だったり、人々の営みの歴史だったりという面もあると思う。だから、そうした綺麗な景色を我々も綺麗だなんて、純粋に楽しむのも良いと思う。この景色になったその背景や歴史などを考えることができるように、私たちが日々情報を発信していかななくてはならないなと考えた。

#### 福島県会津地方振興局長 高野 武彦

歴史、時間の流れとそしてその結果というものをしっかり受け入れながらやっていきたいと思う。

それでは、テレビュー福島さんに移ります。

テレビュー福島さんのプレゼンを見て、すごいと思った。映像と軽快な音楽だけで会津の魅力を表現していただいた。字幕なんかなくて良い。今回の映像は最後にTUFのロゴが出て終わったが、それが「会津こらんしょ」となったら、会津のPR動画そのものだなと思って見ていた。最後が、「どれ、会津に行ってみっか」ってなれば、「行こうよ」っていう感じになると思った。我々がやると、テロップを入れたりしてしまいそうだが、あえて、字幕を入れなくても良いんだなと感じた。あの映像そのまま首都圏のバーやカフェで流しても、おしゃれでいいな、と思って見ていた。そこで、今回のこの会津の魅力のプレゼンで、こだわった点を教えてもらえないか。

#### テレビュー福島 会津若松支社長 八代 光弘 氏

13 市町村に関連した映像を流させていただいた。基本的には私どもの局で番組やニュースの時に取材した映像と、カメラマンのコーナー企画で、各カメラマン一人一人が自分の感性で映像を撮る「四季カメラ」というコーナーがニュース番組の中にあるが、特に綺麗だなと思われた映像は、そこから撮ってきた映像だったと思う。

今日、会津の魅力を皆さんに見ていただくには、テレビであれば映像が一番かなと思った。あえてエリア、ジャンル、季節全く関係なく、アットランダムに並べて、パッと見、よりインパクトもある映像、説明のいらぬ映像を皆さんに見てもらうことで私自身も含めて、会津の魅力を改めて感じてもらえればなと思って作った映像である。

本来そのエリア、地域の魅力は、当然人間であったり、食べ物であったり、物だったり、いろいろあると思うが、先ほどの映像にあったような美しい四季の映像、風景というのは、本当にその土地土地の財産なり、誇りであると思っており、会津の魅力の大きな要因の一つだと思うので、自分としても余所の人に、自信を持って自慢したい数々の映像を見ていただいたところだ。

#### 福島県会津地方振興局長 高野 武彦

それは（八代さんが）会津出身ならではの言えるところでもあろうかと思う。

プレゼンでも話があったが、肖像権などの問題があり、YouTube で同時配信しているところで、「人」を取り上げるのは難しかったという話があった。本当は、人にフォーカスしてみたかったのではないかと思う。映像には入れられなかったけれど、言葉でなら言える TUF さんとしての会津の魅力について、お話しただけないか。

#### テレビユー福島 会津若松支社長 八代 光弘 氏

会津の魅力という言葉は難しい部分があるが、例えば、私ども水曜日の夜 7 時に、「ふくしま SHOW」という番組を放送させていただいている。この番組は、毎回各担当のディレクターが、自分でその街に行き、取材前にリサー

チをし、ネタを拾ってきて放送している番組である。私も含め、その町の番組が放送になると、住んでいる方々も知らなかった情報だったり、知らない場所だったりというのが結構毎回出てくる。自治体の方々にその後話を伺ってみると、「こんなとこ知らなかったよ」と言われることが結構出てくる。それは何かというと「物」があるということは、そこに「人」がいるということ。一人で勝手に面白がってやっている人があるということを見つけれられるケースが多くて、そういう流れになっているかと思う。そういう面白がってやる人たち、頑張ってる人たちというのは非常に大切だと思うし、そういう背景を持った「物」は、まだまだ会津全体にたくさんあると思う。それは非常に大きな魅力につながっていると思う。

今日は具体例を申し上げないつもりだが、一つだけ私が個人的にいいなと思っているのは、会津本郷焼に「TESORO (テソロ)」というアクセサリーのブランドがある。これはもともと地域おこし協力隊の方が、陶磁器のかけら、「じゃらんかけ」というものを見つけて、漆の技法である「金継ぎ」を使って新しいアクセサリー、ブランドまで立ち上げた。こういうストーリーや行動力が、ものすごく大事なことで、私はこういう物が宝物の一つになっていくはのではないかと思っている。

つい先日、「会津おでん」を作りましょう、「会津おでん」を会津の名物にしていきましょうという動きが始まった。「会津おでん」名前も非常に単純でシンプルでわかりやすい。複雑にすればするほどダメになるケースがあるので、これは結構上手くいくのではと思って見ている。我々がぜひ取材をしたいと思うような人や物が増えてくれば良いと思うし、それは結果的に会津の魅力につながっていくと思っている。

#### 福島県会津地方振興局長 高野 武彦

ありがとうございます。まさに「会津おでん」や金継ぎのアクセサリーは本当に魅力的なもので、地域おこし協力隊の方も新しい風を吹き込んでくださっている。そのような新しい会津の価値・魅力というものを、また創造していると感じた。

上手く第2部、私が聞きたかったことにつなげていただいたような気がする。上手いパスをもらった感じだ。あと17分ある。もう1回皆さんに聞きたいと思っているが、やはり、只見線のテーマは皆さんが選んだところであり、今、多くの方々に来ていただいて、いわゆる交流人口が増えているところだ。

一方で、地域おこし協力隊の話もあった。地域おこし協力隊の方だと、先日喜多方で「会津塗」をやっている方が、会津木綿の巾着に入れて売ったり、「会津型」とコラボしたり市町村の枠を超えている。我々は、どうしても今日の中でも、会津若松なら会津若松、喜多方なら喜多方、三島なら三島、まだ13市町村その市町村の枠からはみ出していないところが結構ある。これからの会津は、そういった枠を越えコラボをしていくとか。せつかく只見線、鉄道がつながったところで、新潟県との交流もあるし、会津鉄道、野岩鉄道、栃木県、会津五街道の話がプレゼントにもあった。その交流、広域的に見ていくということも大事なのかと思う。広域という言葉キーワードに、会津の魅力を福島民報さんから順に話していただけないか。「地域の魅力を発信する」、「こんなふうに磨き上げていったらいいのではないか」、というところのヒントになるようなお話をいただけたらと思う。

#### 福島民報社 会津若松支社長 紺野 正人 氏

先ほどプレゼンの中で、美坂高原の日本一星空事業について紹介をしたが、その中に天体観測会モニターツアーがあったと思う。このツアー、三島町で星空を観察して、泊まりは柳津町で次の日は金山町の方に、と町村の垣根を超えたツアーと言えるかなと思う。

要は観光客にとって行政の境はあまり関係ないわけだから、それぞれの町村の魅力を組み合わせて、「会津はひとつ」を合言葉に、これからは広域で売り込んでいく必要があるのではないかと感じている。加えてさらに広域の視点で申し上げると、会津には江戸時代から続く芸妓文化があるが、新潟にも「新潟古町芸妓」があり、今後総合交流や共同イベント等を開催していくのも面白いと思う。

#### 福島県会津地方振興局長 高野 武彦

新潟県の芸妓さんの文化ですか、そういう交流も面白い。楽しみにしています。

では、福島民友さんお願いします。

**福島民友新聞社 若松支社長 小池 正博 氏**

第1部と重複するところもあるが、先ほど紹介した「トライアスロン大会」は、猪苗代町、磐梯町、会津若松市で展開している。また「ヒルクライム」は、会津美里町から大内宿に向かったの坂道を駆け上がる自転車競技。それぞれの大会の時に工夫しているのが、参加者の方に地元のものをとということで、例えば、「トライアスロン大会」であれば会津産コシヒカリの精米、「ヒルクライム」であれば、本郷焼の全ての窯元から賞品を出していただき、参加者にはどれが当たるかわからない状態で、ランダムに賞品を渡す。そうすると今年はこれで、来年参加したら何がもらえるのかな、というアトラクション的なお楽しみ要素も盛り込みつつ魅力を発信している。

八代さんから、会津の魅力はまだまだあるという話があったが、歴史のツアーもまだまだ紹介されていないものがある。例えば「キリシタン文化」、ストーリー性を交えながら、広域で商品化をしていくと面白いと思う。

**福島県会津地方振興局長 高野 武彦**

使う側でランダムに会津の魅力をミックスするという、使う側の使い方もある。キリシタンの話があったが、キリシタンの話だと会津各地至る処にあるので、そこを物語でつないでいく、これもまた一つだと思う。こういうストーリー性は大事だ。

ラジオ福島さんお願いします。

**株式会社ラジオ福島 会津支社長 大内 雅人 氏**

私も会津が非常に好きになってから、広域連携を常に心がけている。先日10月2日、会津川口駅の前で「只見線全線開通記念 出張公開生放送」というのをやってみた。どういうものかということ、メインパーソナリティには、ラジオ

福島のアナウンサーだったが、今ではもう「ふくしまSHOW」の鏡田辰也と  
なってしまった彼を起用し、新潟放送と合同の出張公開生放送とした。どうい  
うことかという、金山町の会津川口駅で公開生放送をやり、福島と新潟で同  
じ放送を10月2日の1時から3時の間放送するという、新潟に只見線  
をPRするという企画。これが、新潟からのパーソナリティが来てメインパー  
ソナリティとやり合うのだが、評判が良くて、メールやFAXの量が半端では  
なかった。これも広域連携だが、この放送は金山町と只見町の提供でお送りし  
た。金山町と只見町との協力で完成した企画。

#### 福島県会津地方振興局長 高野 武彦

自治体同士の取組にメディアも入れた企画。私も会津地方振興局だが、魚沼  
地域振興局と一緒に何かやるというのが、あってもいいかと思った。

福島テレビさんお願いします。

#### 福島テレビ株式会社 会津若松支社長 鈴木 孝雄 氏

会津広域というキーワードだが、会津地方、非常に広い面積がある。調べると千葉県より広い、千葉県自体結構広いイメージだが、それよりも広い面積がある。広域として県域以上のものを一つにすることは、非常に手間がかかるテーマだと思う。各市町村で盛り上げたいというところから、ここ10~20年、隣接する町村やテーマを同じくしている町村と連携して、PRしようということが多くなっている。その中で第1部と話が被るが、交通には、鉄道や道路があるが、結ばれているということは、観光ルートとして一般の観光客の方にもルートを伝えて観光しやすいと思う。鉄道・道路のルートでの皆さんの協力が大事になってくる。交通手段は、移動だけではなく、素晴らしい景色だったり、只見線であれば乗ること自体だったり、鉄道マニアであれば鉄道の写真を撮ることであったり、食事をするのであったり、目的は多岐に渡っている。広域な面積を有する会津をまとめるというか、音頭を取って旗頭となっていくのは、やはり福島県、ひいては会津地方振興局ではないかと思う。それを私ども県域のメディアがPRのお手伝いをさせてもらい、盛り上げていければと思っている。

## 福島県会津地方振興局長 高野 武彦

(会津地域は) 千葉県より広い、ほんとに広い。会津地域 13 市町村は神奈川県より広く、17 市町村では南会津地方振興局と合わせると千葉県より広い。本当に広大な土地である。交通の話があったが、会津若松市を地図の中心にして地図を見ると、会津若松から道路が放射線上に延びている。これは大きな可能性がある。FTVさんのプレゼンに会津五街道の話があったが、本当に会津から、全国世界に道路が通じるという見方、発想を変えると可能性が生まれると思う。

では、中テレさんお願いします。

## 株式会社福島中央テレビ 会津支社長 熊田 智一 氏

会津は福島県の中でも圧倒的に観光資源が豊富なエリア。東北の中でも有数である。猪苗代、裏磐梯、奥会津の自然、蔵の街、ラーメンの街、侍の文化、歴史、絶対に1日では回りきれないのは当然だが、それだけの多くの観光資源に溢れているということ。例えば1週間ほど滞在して、各地の市町村に1泊ずつというようなことができれば、いろいろなことを体験できる。広域連携をして、例えば冬の雪山のアクティビティとお城、侍の歴史等を体験でき、四里四方のグルメを満喫できるようなとても贅沢な旅が可能になる。もう一つ、先ほども出た新潟との連携だが、昔から川で繋がっていて、今は道路と鉄道で繋がっている新潟。新潟も会津と同じように海の幸など美味しいものがたくさんある。あと会津と隣接している山形の置賜地方その三地方が連携できれば、例えば新潟の海の幸、米沢牛、ごはん、お酒、馬肉、豚肉、鶏肉と北海道にも絶対に負けないような日本一のグルメエリアができるのではないかな。それから、野菜や山菜を作っていくための連携ができればいいと思う。

## 福島県会津地方振興局長 高野 武彦

グルメエリアいいですね。グルメでエリアを作りそこで楽しんでもらう。観光客の皆さんも、会津若松に宿を取り、会津管内を一周して、また会津若松に戻って泊まるという方が多いが、会津管内を泊まって歩くツアーのような、泊まり歩く商品というのにも必要だと思う。そこで市町村と連携して作っていく見

せ方、そのストーリー性と楽しみ方、そこにグルメエリアを分けたりするような見せ方は必要なのかと思った。

では、大槻さんよろしく申し上げます。

## 株式会社福島放送 報道部記者 大槻 忍 氏

私もラジオ福島の大内さんほどではないがお酒が大好きで、ここはやはり日本酒と鉄道、「呑み鉄」でコラボレーションできたら面白いのではないかとという提案である。私事で恐縮だが、大学生活を新潟で過ごし、今から25年以上前になるが、当時新潟というとお酒、しかも端麗辛口のスッキリしたお酒、という差別化に成功した地域だった。その時、福島のお酒がどうだったかという、あくまで個人的な見解だが、今ほどではなかったのではないかと思う。実際、今から30年ほど前、1990年代、新酒鑑評会では、金賞受賞数は福島ゼロだった。それが今では9連覇できるぐらいに相当レベルアップしている。新潟の端麗なお酒に対し、会津のお酒、これも個人的な見解だが、どちらかというところだと芳醇だがそうくどくはなく飲みやすい、とてもバランスが取れていると思う。今は、ブランドになっている福島のお酒、会津のお酒を新潟のお酒と共に列車の中で呑めたらいいなと思う。実際今 新潟県内では「Shu\*Kura（しゅくら）」という観光列車が運行されている。座席の前に大きなテーブルがあったり、一両丸々バーカウンターのようなカウンター席の列車になっていたり、そこで新潟の地酒とそのお酒にあった地元のおつまみや食事等ができる列車が運行されている。これを例えば磐越西線や只見線線で福島のお酒と新潟のお酒を一緒に提供するとか、あるいは県内だけでも、例えば福島を出発し、直接乗り入れできるかどうかかわからないが、東北本線から磐越西線に乗り入れ、その道中、福島、二本松、郡山、会津と酒所が並んでいるので、いろいろな酒蔵のお酒を飲み比べができるということで、実際に来てもらって、会津地方に泊まってもらう、そういったことができれば面白いかなと思っている。列車の中では、例えば会津の漆器で作った器やお箸も販売しながら、様々なコラボレーションで会津の魅力を多くの人に体感してもらえらる機会があるといいなあってと考えている。

**福島県会津地方振興局長 高野 武彦**

本当に「わくわく」する提案、ありがとうございます。そういうツアーだったら是非乗りたいという方、多いのではないのでしょうか。そこで泊まったところで温泉に浸って、また次の鉄道の旅で飲みながら 食べながら、いいですね。

お待たせしました、八代さんお願いします。

**テレビユー福島 会津若松支社長 八代 光弘 氏**

広域というキーワード、難しいものだと思っている。例えば、今の只見線がいい例だと思うが、良いものがあるとどんどん外から人が来てくれて、新たな地域間交流が生まれてくるというのは、どこのエリアでも一緒だが、今回の只見線はそれを見せてくれた一つだと思っている。例えば同じエリアということで、只見に「八十里越街道」、国道 289 号が、開通する予定になっていると思うが、それが開通すれば、新潟側からの新しい人の流通が奥会津に生まれてくると考える。良いもの、個々輝くものがあれば、人の動きが出てくると思うので、広域という部分ではありつつも各エリアの魅力あるものが重要だと思っている。例えばソフトメーカーである我々ローカルテレビ局という立場で、どんな風にお役に立てるかというのを一つ、実は 10 月 30 日に郷土写真家の「星賢孝さん」と只見線を主役にして、星さんを取り上げさせていただき、30 分番組を放送させていただいた。この番組は、上手くすると今年の年末年始あたり、県外の系列局に放送をしてもらえるかと思っている。これは他の局も同じだと思う。例えば、会津地域の中で自慢できるものをそういう番組に仕立てられた場合、他のエリアの局さんは、こういう番組だったら、新潟の視聴者、山形の視聴者見てくれるということで流しますよとなる。もちろん只見線だけに限らず、いろいろな会津の宝、活動だから信念をこれからまた我々も新たに掘り起こしてい、番組に仕立てていければ県外の局さんに放送してもらうことで、地域連携のお手伝いができるのではないかとと思っている。

**福島県会津地方振興局長 高野 武彦**

メディアの放送局の皆さんをと一緒に、会津の魅力を他県、全国そして世界に売っていくというやり方、会津モデルとして仕掛けていくことは大事なのかと思う。TUFさんだけではなく、他の新聞、ラジオ、テレビ、各社とそんなやり方で発信していくというのは、新しい積極的なPRの仕方として重要だと思う。こういうことはやれますよね、本当に今日はお話を聞いて良かった。

パネラーの皆さん、今日は貴重な御意見、そして資料の編纂にお時間を取っていただき、ありがとうございました。

今日は「人が魅力の中心」だというのは、皆さんと話していて改めて気付いた。また逆転の発想で、動物の目線になったり、公共工事などで変わりゆく景観も受け入れたりしながら、しっかりと時間の流れの中で会津の魅力を見ていく、それは歴史・文化というところだ。我々会津の魅力は、わざわざ名前を出さなくとも、それだけで十分訴えられる価値があるということも、今日のプレゼンで改めて感じた。それは、我々の自信になったし、改めて「誇り」というものを感じた。会津の「誇り」の一つである只見線は復興のシンボルであると同時に、会津の誇りの象徴ともなってきたところだが、この只見線を様々な視点から、磨いて、発信して、会津の魅力を磨き上げていくことが、会津に住む人々だけではなく 全国の人、インバウンドに訪れる世界中の人達にも希望を与え、輝く未来につながっていくのではないかと思う。只見線を活用した私たちの取組が、他の会津の「宝」磨く際にも、こんな風にやっ払いこうよ、こんな形で見せていこうよという動きにつながっていくと思う。こんなことも、皆さんと話して聞いていて気付いたところだ。

会津地域の13市町村と県出先機関は 会津地域の住民の皆さん、企業の皆さん、会津地域に思いを寄せてくれる皆さん、そしてメディアの皆さん方と一緒に考えて人生100年時代、会津地域をより良く、より魅力的な、そして誰もがここに住んで良かったと思える地域にしていきたいと思うので、皆さん今後ともよろしくお願いします。

さて、ここで次回のシンポジウムの案内をしたいと思う。「会津の女性がみる会津の未来」を12月17日、ここ会津大学を会場に行きたい。会津地域では古くから瓜生岩子、新島八重、大山捨松に代表されるように女性が活躍してき

た歴史とその風土がある。しかし、最近シンポジウムを催すといつも男性ばかり、今日も男性ばかりになってしまった。やはり、女性の視点を地域づくりに生かすため、現在活躍している会津の女性7人から、多様性を尊重できる会津の未来を築くために忌憚のない御提言を受けたいと思う。横田純子さん、齋藤記子さん、新城希子さん、宮澤洋子さん、遠藤由美子さん、二瓶優子さん、大須賀美智子さん、7人の女性。今の会津を代表する7人の女性だと思う。皆さんから今度は「女性が見る会津の未来」ということで、年の瀬になるが、皆さんとまたこの場で議論していきたいと思う。1か月半後だが、ここ会津大学で皆さんとお会いしたい。本日はどうもありがとうございました。